

三溪だより

～心かがやき ともにのびる 三溪っ子～
めざせ あいさついっぱい えがおいっぱい 楽しい三溪小学校



三溪小学校キャラクター
サブローイックさん

発行：令和5年 11月 30日

三溪っ子の「シビックプライド」を育む

校長 宮武 紀子

「シビックプライド」— 最近よく耳にする言葉ですが、「地域への誇りと愛着」という意味です。さらにこの言葉には、自分たちの住むまちをよりよいものに、そして、誇れるものにしていこうという「意志」が含まれています。すなわち、「愛着」に留まらず、「自分自身が地域の構成員である」という自覚と責任をもって、まちをよりよい場所にしていこうとする、強い思いや意欲が込められているのです。

本市では「高松で育ち、高松で学び、高松で暮らしてよかったと思える教育」の実現に向け、子どもたちのシビックプライドを醸成しながら、将来、市の発展に貢献できる人材育成をめざしています。これを受け、本校では、地域を教材として学ぶ「総合的な学習」の時間（本校は三谷町のシンボルである「三谷三郎池」を学習名にいただき「三郎学習」として位置付けています）に、各学年のテーマや内容に基づいて、毎週取り組みを重ねているところです。

- 3年生のテーマ：地域の伝統文化
*主に「三谷三郎地搦き唄」の体験・習得を通して、三郎池が地域にもたらす恩恵や意味について学びます。
- 4年生のテーマ：地域の自然環境
*主に三郎池の環境保全のための方策について、水質検査等の知識を得ながら学びます。
- 5年生のテーマ：地域の福祉
*地域にある福祉施設見学や交流を通して、共生の意味について学びます。
- 6年生のテーマ：地域の歴史
*地域の史跡や先人(藤川三溪)について、現地見学や顕彰会の方々からの講話を通して学びます。

※ 1、2年生は、三郎学習の前段階として、生活科の学習に地域探検の単元を位置付けており、多様な施設や環境について、自分との関係性をもとに、その意味について学びます。

どの学年においても、得られた学びをもとに「自分はどうかあるべきか」という自己の生き方や在り方について考える機会を設けています。それにより、目的意識を高揚させ、地域の一員としての自身の将来像を描けるようにしていくことがねらいです。これらのことも、自然環境を守り続けている方々から直接お話を伺ったり、実際に地域で活動している方々の様子を間近で拝見したりすることで、先輩方の熱い思いが実感できるからこそ可能だと考えます。特に「三谷三郎地搦き唄」の継承者の方々から直に教わるという貴重な体験は、文化継承の一翼を担っているような高揚感や自負を、子どもたちもつことにもつながると思っています。以前の学校通信にも書かせていただきましたが、午前5時の三郎池のゆる抜き見学などは、なかなか目にする事のない貴重な体験です。ゆる抜きと米作りの関係を直に学んだ子どもたちは、おそらく三郎池の意味を実感できたことでしょう。

コロナ禍が明けて、地域の貴重な行事も再開し始めました。先日参加した「三郎池クリーンアップ作戦」では、干上がった三郎池の底を歩きながら、改めて池の大きさを実感するとともに、先代の会長様から伺った池の歴史や池干しの意味についてのお話も、非常に興味深いものがありました。なかなか休日の参加は難しいところがありますが、子どもたち自身が自分から地域の文化や歴史、自然環境のことについて、「もっと知りたい」「関わりたい」と思えるような三郎学習へとより内容を充実させていきたいと、切に考える次第です。

三谷町への興味が、愛着になり、地域への感謝の心につながり、そして、地域の担い手となる、そんな意義ある学習を今後もめざしていきたいと思っています。保護者の皆様、そして地域の皆様には、よろしくご支援、ご協力賜ります様、お願い申し上げます。



〈三郎池クリーンアップ作戦の様子〉(写真提供：香川県三郎池土地改良区)